

キリスト教カウンセリング研究講演会：「心の病をいやす福音家族」報告（2017年度 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究会 主催）

著者	星山 玲於奈
雑誌名	聖学院大学総合研究所Newsletter
巻	Vol.27
号	No.2
ページ	80-80
発行年	2018-03
URL	http://doi.org/10.15052/00003402

2017 年度 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究会 主催 キリスト教カウンセリング研究講演会 「心の病をいやす福音家族」 報告



講演者：晴佐久昌英神父（左上段）

2018年2月16日、東京都中央区新富町にある日本印刷会館にて聖学院大学総合研究所主催のキリスト教カウンセリング研究講演会が開かれた。講演を務めたのは、カトリック浅草教会・上野教会主任司祭である晴佐久昌英神父であった。会場には103人が来場するほどの盛況であった。講演は藤掛 明氏（聖学院大学人間福祉学部教授）の開会の挨拶から晴佐久氏の本講へと入っていった。晴佐久氏は「心の病をいやす福音家族」という題で、晴佐久氏自身の神父としての歩みが語られた。

晴佐久氏は神父という立場にある事を選ばれた事で、一般的に結婚をして子どもを授かるという「血縁家族」から、「福音家族」を得ることを決められた。「福音家族」というのは心の病に苦しんでいる人たちの、血縁家族同然に接することによって、ひとつの家族のようにつながることである。晴佐久氏は教会を心に病に苦しんでいる人々の居場所であり、また心の病を癒す場所であると語られた。教会に心の病を持っている人が教会にいる事が普通となりつつあるとしつつ、カトリックの精神科医がこれからの精神医療について、宗教と医療が

ひとつになるべきであると晴佐久氏から語られた。晴佐久氏は多くの心の病を負った人たちと付き合い福音家族とすることを通して、福音家族が人を救うことであると同時に血縁家族から離された人々をひとつの家族として寝食を共にすることで、世界を救うと言っても過言ではない程の使命感を帯びた言葉を語られた。それを象徴する言葉として「一緒ごはん」という言葉である。一緒にご飯を食べることで、お互いの弱さを受け入れたりお互いに成長することによって癒やしあえる事であると晴佐久氏は主張した。晴佐久氏は多くの福音家族を持ち、食卓と心を共有することで我々が一緒にいる事は素晴らしいことだと確認することであると語られた。晴佐久氏は家族とは何であるかを福音家族を通して一番近いところで経験していることや、多くの福音家族によって多くの人とつながる事の重要性も同様に晴佐久氏自身が深く知っていること、そして福音家族を通して人類や世界を救う手立てとしてしていることが語られた。

講演の終盤において、晴佐久氏への質問が非常に多く寄せられた。その中には福音家族への見学希望や福音家族への他の信者の心の内がどのようなものであるかなどの質問が挙げられた。晴佐久氏はこれらの質問に対して、福音家族は参加者としてひとつの共同体を成しているので家族としての参加を歓迎する事を述べたうえで、心の病を癒したい人や教会に福音家族としての居場所を作ることが晴佐久氏が目指している事のひとつであると語られた。多くの参加者が晴佐久氏の語りに耳を傾け、多くの質疑が飛び交う有意義なシンポジウムとなった。

（文責：星山 玲於奈〔ほしやま・れおな〕 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程）